

第4回 下野市総合計画審議会会議録

日 時	平成19年3月27日(火)午後1時30分から4時まで
場 所	下野市役所国分寺庁舎304会議室
出席委員	中村祐司会長、須藤勇委員、伊澤剛委員、野田善一委員、伊澤敬一郎委員、早川進委員、中島一成委員、吉崎賢介委員、高山トミイ委員、岡田雅代委員、近藤由紀子委員、大貫理委員、高山和典委員、石田文治委員、金子康法委員
欠席委員	高田憲一委員、長光博委員、柴山征吉委員、大島昌弘委員、倉井徳勇委員、小川榮一委員、関京子委員
出席者	(総合計画懇話会) 倉持幸子氏、関口博之氏、中澤悦三氏 (市) 篠崎第一分野担当助役、野口総務企画部長、諏訪市民生活部長、毛塚健康福祉部長、川俣上下水道部長、石田教育次長
事務局	(企画財政課) 篠崎課長、小口主幹兼課長補佐、長主幹兼係長、福田副主幹、濱野副主幹、坂本主事補
傍聴人	1名

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
- 4 閉会

会長挨拶

年度末のご多忙な中、出席いただき感謝する。市民アンケートについては、自由意見を含む完全版が提出されている。また、総合計画懇話会から委員が出席されており、報告もある。私としては貴重な機会だと捉えている。基本構想の素案についても、皆さんの忌憚のない自由な意見を伺いたい。

議事

会議録署名委員の指名

(中村会長) 本日の会議録の署名委員に、中島一成委員と高山トミイ委員に願います。

前回会議録の確認について

(中村会長) 前回議事録の確認をしたい。修正意見のある方は願いたい。

(石田委員) 5ページの私の発言の最終行で「苦しいのではないかと思う」が口語調になっているので「効率的な審議ができないのではないかと思う」と変更していただきたい。本質的な議論ができないという意味であった。7ページで、「今ある制度をフル活用し、責任ある方にまず、市をより良くしてもらえるように」と「責任ある方にまず」を追記していただきたい。その下、「あまり市民に期待をかけることは」を「あまり一般市民に責任や義務が及ぶ多大な期待をかけることは」と変更していただきたい。市民と行政の協働についての話である。

(岡田委員) 6ページの私の発言の冒頭に、「骨子案にあるように、(キャッチフレーズは並ばない方がよい)」と追記していただき、同ページのもう1つの発言「結果の確定したもの」のところを「結果がほぼ確定したもの」と変更いただきたい。もうひとつ確認したい。第3回審議会の資料説明については記載がないが、これは未定稿だから記述されていないのか。また、本日はアンケート結果など資料についての説明などが予定されているが、要点は議事録に記載されるのか。

(事務局) 未定稿だからということではないが、要点を入れてほしいという要望があればそのようにする。

(中村会長) 他にあるか。なければ、資料説明を願います。

1) 下野市総合計画策定に係る市民アンケート結果について

(事務局)

資料1「市民アンケート調査結果」について説明する。第3回審議会で既に報告しているが、前回は未定稿であった。追加部分の説明をさせていただき、報告としたい。

・28ページでは、日常生活における満足度と重要度を加重平均してグラフ化し、わかりやすくした。第1象限、右上端部にあるところから施策の必要性が高いことがわかる。29ページは参考として、新市建設計画の際のアンケート調査結果である。比較していただければと思う。施策の必要性が、高齢者福祉で上がっていて、農業振興、商業振興では相対的に下がっていることがわかる。また、新市建設計画策定に係るアンケートにはなく、今回新たに追加した項目は、「保険・年金」「市の財政運営」「市の仕事の効率性」である。このあたりは、参考としてご覧いただきたい。

・45 ページ以降に自由回答を整理している。6 つの分野に分けてそれぞれの数量をとりまとめた表が 50 ページである。45 ページでは、各分野の傾向をまとめている。行政分野については行財政改革や合併後のあり方についての意見が多く、住環境や交通体系・産業の分野においては道路の整備や商業振興、福祉分野では子育て環境と高齢者福祉、交流・スポーツ・教育分野では観光・イベントについての意見が多かった。46 ページ以降は、各分野の意見の抜粋となっているので、参考にしていきたい。

(中村会長) 市民アンケート調査結果について、28 ページの施策への満足度と重要度などわかり易くなった。ご意見はあるか。

(石田委員) 新市建設計画の際のアンケートと今回のアンケートの比較で、施策の重要度・満足度が変化しているところがある。例えば「防犯」については満足度が低下したように見て取れる。「上水道」や、「商業」についても違う。これは、それほど年月が経っていないにも関わらず、市民意向が変化したということか、それとも調査手法の問題なのか説明をお願いしたい。中間ラインもよくわからない。全体的に、新市建設計画アンケートのときより項目が増えており、わかりにくい。

(事務局) 「防犯」については重点施策として取り組んで、満足度が上昇したと見て取れる。中間ラインは全統計の中央値を示している。また、新市建設計画アンケートでは重要と思う項目を 5 つ選択できたのが、今回は 3 つ以内の選択だったため、選択の幅が狭まったことも影響しているかと思う。また、象限が変われば大きな変化とすることができるが、「防犯」も「商業」も同じ象限内なので変化したという程ではないと解釈できる。

2) 下野市総合計画懇話会の提言書について

(中村会長) 総合計画懇話会の提言の報告をお願いしたい。10 回開催してまとめた提言書について、メンバーの方から説明をいただきたい。

(倉持氏) 懇話会は、第 1 グループ、第 2 グループの 2 グループで議論した。第 1 グループリーダーの関口さん、第 2 グループリーダーの中澤さんも来ていただいている。資料 2「下野市総合計画の策定に伴う市民からの提言書」について、本日は会長の代わりに、私から説明させていただく。みなさんに積極的に懇話会を盛りたてていただき、事務局の想定より多くの回数をかけて議論した。私たちは、「みんなで創る元気なまち」と下野市の将来像をまとめた。「みんなで」は市民だけではなく、行政や企業、来訪者も含めて門戸を開くという視点である。「創る」は古くてよいものを引き継ぎながら新しいものを創っていくという視点、「元気な」は心身ともに元気な市ということ。その結果、下野市の将来像は「みんなで創る元気なまち」とした。

提言は、7つの分野に分かれている。

1. 都市基盤分野については、バリアフリーからユニバーサルデザインという観点から議論した。この分野の1つ目の主要事業は「ガーデンシティ・緑のネットワークの構築」、2つ目は「費用対効果を考えた都市計画事業の実施」、3つ目は「情報基盤の整備による情報格差の是正と地域情報の共有化」という3つである。
2. 保健・福祉に関する提言は、団塊世代の視点を重点として地域デビューの支援などを含めた。主要事業には「健康づくり・自治医大との連携」「高齢者・障害者の支援と生きがいづくり」「市民参加による子育て支援」を挙げた。
3. 教育・文化に関する提言では、子ども自身の育つ力「子育て力」を中心に議論した。「学校と地域社会の関わり」「活動を行う場の整備」を主要事業に掲げた。
4. 生活環境に関する提言は、この市が2つのごみ処理場を抱えていることについて、将来的に統合をという議論が中心となった。主要事業は「子どもを中心とした安全・安心」「ごみ処理問題への対応」「市街化調整区域の下水道事業の推進」とした。
5. 産業に関する提言の主要事業は、「農業の活性化と地産地消の推進」「医療関連企業等の誘致・立地」「観光産業の振興」。自治医科大学があるということで、2番目の医療関連企業等の誘致・立地となった。観光については、目立った観光資源があるわけではないが、点在する観光資源をつなげてということである。
6. 地域社会に関する提言は、自治会の未加入者が増えている現状を念頭において、「コミュニティ等の再構築と参加意欲の高揚」「下野市の一体化を促す統一イベントの開催」という主要事業を掲げた。
7. 行財政に関する提言では、主要事業は「財政運営」「組織改革と業務改善」「市民との協働に関する体制強化」とした。協働、協働といわれるが、まずルールが重要で、市として協働を進めるための窓口が必要だろうと議論した。

提言の重要な部分は、12、13ページにまとめてあるのでお目通しいただければ、私たちが熱く議論してきたことがわかっていただけたらと思う。

(中村会長) よくまとめていただいたと思う。私も事前に読んできたが、今回に限らず次回以降も審議会にお持ちいただき、活用していきたい。質問があれば、発言願いたい。

(須藤委員) 大変すばらしい提言書が出てきたと感じている。4ページの都市基盤に関す

る提言の中で、ケーブルテレビ事業や市営電話事業が出てきた経緯について詳しく聞きたい。

(中澤氏) 懇話会のメンバーは、それなりの専門家が集まっていた。将来市庁舎が建設される場合に、これからはコンピュータの時代であるからということで、インターネット接続事業やケーブルテレビ事業や市営電話事業等の話が持ち上がった。たとえば、市庁舎の規模を従来の3分の2にして、市職員は自宅で対応できるようにしたらどうだろうという提案もあった。費用はかかると思うが、長期的視点に立って、こういった意見を含めながら市庁舎建設を進めていただきたいと思います。

(須藤委員) 大変な事業費がかかるので、どの程度の議論がなされたのか気になった。9ページの保健・福祉に関する提言のなかで、医療関係関連企業等の誘致・立地についてもどれほど具体的に議論されたのかが知りたい。また、6ページの主要事業「健康づくり・自治医大との連携」と「市民参加による子育て支援」であるが、私は官から民へ極力移譲していった方がよいと思っているが、このような学童保育の体制の確立というと、官が進める考え方ではないか。どのような話し合いがなされたかについても伺いたい。

(関口氏) 当初は、「子どもたちの生活環境をつくる」(就学で出て行っても就業で帰ってこられる)と「高齢者の生きがい・居場所をつくる」、「行財政改革、協働を進める」の3つにまとめた。これを最終的に7つの分野に振り分けることになったので、このようになった。学童保育の体制の確立というのは、学校教育の現場にもっと地域の間が入っていこう、団塊の世代をボランティアとして活用しよう、という発想である。先ほど質問があったように、行政や民間が、ということでは話し合っていない。医療関連企業の誘致については、企業誘致はどのまちでも考えると思うが、下野市には自治医大という大きな特徴があるのだから、医療関係の企業に来てもらったらいいのではないかと発想で挙げた。

(中澤氏) 提言書14ページの「商工業の振興」内に「医療関連企業の優先誘致」や「IT関連企業の優先誘致」とあるように、企業を誘致するならば医療関連企業やIT関連企業を希望したい、ということである。

(倉持氏) 学童保育、学校開放について申し上げる。子育て支援といわれて行政では実施されてきたが、今後は「子育て支援」、子どもが自ら育っていくことを支援しようではないかという前提で話し合った。いろんなルールを吸収していく場をつくる必要があるのではないかと考えた。

(岡田委員) 質問というより感想だが、総合計画は行政の計画である。アンケートをみても高齢者福祉がニーズとしては高い、となる。それに比べて、この提言は、行政へのお願いということではないところが多くある。行政がやるの

か民間がやるのかを考えずにまとめたのはかえって好ましいと思う。高齢者も福祉の対象となるだけではなくて、主体になる場合もあり、誰が主体となるかはわからない。ただ、提案いただいたことすべてが行政計画としての総合計画に載るのは難しいと感じた。総合計画になると、どこに埋めたのか分からなくなってしまう危惧もある。それについて議論していくべきだと思う。ともかく、いろいろな分野に関して、よくまとめられたと思う。また、前回の審議会でも話したが、懇話会は提案すると解散してしまう。この提言書を提出し、今後どうするのかを伺いたい。

(中澤氏) 懇話会の委員の間では、反省という意味も含めて、今後もボランティアでよいので計画策定になにかしら関わっていきたい、懇話会をなんらかの形で残したいという意見が強かった。個人的に、合併後にこれまで自分たちの地域ではなかった地域について勉強できて非常に良かった。他の委員からも、この懇話会の提言は今後のスタートだという意見も出ていた。

(関口氏) その通りである。「みんなで創る元気なまち」の将来像に向かって、懇話会のメンバーは自分たちも何かやらなければという気持ちになっている。市民との協働の窓口づくりや教育など、懇話会委員でもぜひアクションを起こしていきたい。また、先ほどの情報基盤の整備で市営電話事業の話だが、専門家が、呼び出してくれればいつでも説明に行くと言っている。懇話会参考資料には詳しい資料もあるので、ご覧になって議論をお願いしたい。

(石田委員) たくさんの問題意識があってありがたいと思う。たとえば、窓口の件は自分たちで担うという話もあったが、すぐにでも自分たちでやっていけるといえるものはほかにもあったか。

(関口氏) 具体的に、この事業は私がということまでは聞いていない。ただ、懇話会とは別に、ボランティア養成講座を卒業した人など、なにかやりたいと思っている人やグループはたくさんいるし、あると思う。

(中澤氏) ガーデニングの件については、自治医大病院周辺など、懇話会委員の中に関わっていききたいという人がいた。

3) 下野市総合計画基本構想(第1次素案)について

(中村会長) 基本構想(第1次素案)の議論に入りたいと思う。アンケート結果や懇話会の提言書を受けて、でも、あまり細部にこだわらずというところをお願いしたい。まず、事務局から説明をお願いする。

(事務局)

資料3、基本構想第1次素案を説明する。お手元の資料をご覧いただきたい。市民アンケート、懇話会の提言、並びに新市建設計画などを元に作成している。宜しくご審議いただ

きたい。

< 序論 >

- ・ 1 ページ、「1. 計画策定の趣旨」。前段では社会・経済情勢を記載し、そのような情勢の中で計画的な行政運営の指針が必要で、総合計画を策定している、という趣旨を記述。
- ・ 2 ページ、「2. 基本構想策定の基本的考え方」。まず、新市建設計画との整合の視点、2 つ目に社会情勢・課題などに対応する視点、3 つ目に市民参画の視点と 3 つの着眼点を挙げた。

< 下野市の現状と将来見通し >

- ・ 3 ページ、「(1) 人口・世帯」として、国勢調査のデータをもとにコーホート法で人口推計を実施した。人口のピークは平成 37 年、以降はなだらかに減少する。世帯数、就業人口数の推移もグラフ化している。
- ・ 4 ページ、「(3) 社会・経済動向」の産業動向。商業については、大規模化が進むなど下野市の商業構造が変化している。5 ページ、工業は事業所数、従業員数とも変化し、競争力のある事業所が大きく成長し、出荷額を伸ばしている。6 ページ、農業は総農家数、経営耕地面積ともに一貫して減少している。ただ、農業集積が若干進んでいることが農業産出額からみてとれる。
- ・ 7~8 ページ、保健、福祉、医療の動向と学校教育の動向について。少子化についての課題が顕在化している。
- ・ 9 ページ「(4) 下野市の経済規模の見通し」について。人口推計と連動させた見方をしている。卸売年間販売額と製造品出荷額等は、経済成長率を 0.5%として計算している。内閣府国民経済計算部が 3 年間の成長率を 0.8~1.0%としているので、下野市はその約半分で計算した。農業は、高齢化と技術革新などを見込んで現状維持とした。

< 市民参画 >

- ・ 10 ページ、市民参画による市民意向の把握について。総体的な市民意向として市民アンケート調査の概要、続いて懇話会の提言の概要を掲載している。17 ページに市民参画の総括として、主要なエッセンスを抽出している。今後の重要な施策として「地域社会と行政との協働を重視」すること、市の将来の姿として「市民の参画と一体感、安心・福祉を重視」としてまとめた。

< 下野市の将来像 >

- ・ 18 ページ、下野市の将来像だが、前述の項目を勘案してとりまとめている。市民アンケートからは「充実した福祉による安心して暮らせるまち」、懇話会提言からは「人と人との交流を基調にみんなで創り上げる協働型社会の実現」、新市建設計画からは「市民の交流融合による新しい文化の創造」で、これらから、下野市の将来像を「思いやりと交流で創る新生文化都市」と定めた。

< 土地利用方針 >

- ・ 19 ページの土地利用方針。市域全体の土地の利活用の方法を考え、各種の拠点機能を配置するとともに、近隣市町村との交流を促進するため広域連携軸を設定した。拠点等の区分については、ほぼ新市建設計画を継承しているが、地域保健福祉拠点に関して若干変更がある。20

ページに都市構造イメージを掲載している。

< 施策の展開方向 >

- ・ 21 ページ、今後の施策の展開方向について。本編では、将来像が抽象的になりがちであるため、各施策と将来像をつなぐため、2 つに分類して展開方向を入れた。A の分類については、「心豊かに暮らせる、創造と躍進のまち」。B の分類は「心安らかに暮らせる、安全・安心なまち」としている。22 ページで、今まで説明した市民参画から基本構想への項目の体系図、フローを示している。

< 施策大綱 >

- ・ 23 ページ以降の施策大綱。展開方向 A から、3 つの施策の大綱の分類を挙げている。「1. みんなで学び文化を育むふれあいのまちづくり」として、次代を担う人材の育成など、3 本の柱で、施策を実施していきたい。
- ・ 続いて 24 ページでは「2. 知恵と意欲で創造性豊かなまちづくり」とし、産業分野の 3 本の柱を挙げている。
- ・ 25 ページは A の分類の最後、「3. 都市と田園が共生する便利で快適に暮らせるまちづくり」で、定住人口の確保の重要性を認識した上で、うるおいのある緑環境の整備等 3 本の柱を挙げている。
- ・ 26 ページ以降は施策大綱の B で、その 1 つ目は「4. 安心して暮らせる健康で明るいまちづくり」とした。施策の柱としては生涯健康のまちづくりなど、4 つを挙げている。
- ・ B の 2 つ目は「5. 豊かな自然と調和した快適で安全なまちづくり」で、施策の柱は災害対策など 3 つとしている。
- ・ 施策の大綱の最後は、「6. 市民と行政の協働による健全なまちづくり」で、内容としては、協働のまちづくりの推進、行財政運営の充実、広域行政の充実の 3 つとしている。

< 行政運営の方針 >

- ・ 29 ページ、厳しい財政状況を前提として計画的な行政運営を進めていく必要があるということから、まず「1. 計画から評価・成果の検証へ、さらに事業の見直しへ（PDCA サイクルの導入）」ということで、総合計画に位置付けられた施策を実施し、評価検証して次につなげていく。
- ・ 行政運営の方針の 2 つ目は、「2. 選択と集中の徹底：施策の特性を踏まえた優先順位の設定」である。プラスの創造やマイナスの抑止に大きな効果が現れるものから優先順位を高くするなど、政策にメリハリをつける、としている。事業実施後は評価を行い、事務事業は事業費の肥大化抑止や圧縮を図る一方、公共施設についてもサービスを効率的に提供するために統廃合・合理化を進めていく。
- ・ 最後に、31 ページの総合計画事業の優先度設定のイメージ図である。横軸は市の実施責任・義務的度合、縦軸は切実度・熟度・費用対効果で、これによって個々の事業を的確に把握して、進めていく予定である。

- (中村会長) では、実質 18 ページ以降を中心に議論することとしたい。前回の審議会で、17 ページまでと行政運営の方針(29 ページ)「1 計画から評価・成果の検証へ、さらに事業の見直しへ」まで議論したと記憶している。その議論の結果については、まだ反映されていないようであるが、どのように進めるのか。
- (事務局) 本日「1 計画から評価・成果の検証へ、さらに事業の見直しへ」と「2 選択と集中の徹底」をあわせて議論していただき、その結果を次回提出する。
- (中村会長) それでは、1 については前回の議論の結果を踏まえ、2 については本日議論するということによろしいか。1 では、下から 8 行目「計画に位置づけられた・・・」の段落で、前回の決定を忠実に反映させると、「市民と行政の協働による行政評価を行います」となる。ここから本日議論していただきたいのだが、その結果、「さらに評価結果を参考に・・・」の段落 2 行は削除していいと思う。そうすると、2 の 4 段落目、「また、事業実施後は・・・」以下の 2 行を削除し、「事後評価にあたっては・・・」の 2 行は、1 の「なお・・・」の前に持っていった方がよいと考える。PDCA サイクルについて重複していたのがすっきりする。
- (事務局) それでは確認のため、29 ページの 2 段落目から校正の提案を読ませていただく。「計画に位置づけられた施策の実施後は、毎年度終了後に成果の検証と事業の存廃の両面から、市民と行政の協働による行政評価を行います。事後評価に当たっては、行政内部の評価に加えて、有識者や市民による外部評価を実施し、外部の意見が業財運営に反映されるように努めます。なお、市民から必要とされる・・・。」となる。
- (中村会長) これで、両方がうまくバランスがとれるように思う。2 のところは前回議論していないが。
- (金子委員) 29 ページの「評価結果を参考に次年度の予算査定を行なう」という文面は前回にはなかったのではないかと。そういう細かいところはともかく、17 ページまでの半分くらいが現状分析になっている。基本計画なので、現状分析以外の部分をもっと厚くしてもらって、図などを入れてわかりやすくしてほしい。文章ばかりで抽象的でわかりづらい。
- (中村会長) 今回議論しているのは基本構想案であり、基本計画の前の段階。基本計画や実施計画は今後策定する。基本構想は抽象的にならざるをえない。
- (金子委員) 24 ページ 2(3)にある、「シティ・セールス」とか、カタカナを使わずに日本語で記載していただきたい。市民にとって分かりやすい表現ではないと思う。前回は申し上げたはずである。
- (中村会長) その前に、先ほど私から指摘したことは、紙にして次回議論したほうがよいと思う。今の金子委員の指摘については、皆さんの意見を伺いたい。

- (大貫委員) 確かに「シティ・セールス」は民間では聞きなれない言葉である。加えて 24 ページ、「(3) シティ・セールスの推進」のところで、「滞在の場」とあるがこれが何を表しているのか。宿泊施設なのか、単なる休憩施設なのか。また、25 ページの「(3) うるおいのある緑環境の整備」の中の「複合施設化」とは、何を表しているのか。上の文章にあるネットワーク化とつながるのか。さらに、26 ページ「(4) 消費生活の向上」に「消費者の自立を支援」とあるが、これは具体的にどういうことをするのか。同じく 26 ページ「(2) 支えあいのまちづくり」のなかで、「乳幼児やお年寄りを見守り」とあるが、乳幼児の見守りは母親の役目ではないか。
- (中村会長) 個人的には、乳幼児は地域社会で見守っていくべきと考える。皆さん、他にもいろいろ出していきたい。
- (岡田委員) 前回の議論の反映については、次回議論したい。細かい言葉の前に、「心安らかに」といった表現について、今回議論することになっていたが、このままでは確定となってしまうのか。
- (中村会長) 今日で確定ということではないが、これからのためにも意見を伺いたい。
- (岡田委員) 新市建設計画とまったく同じ将来像は、いかがなものかと思う。
- (大貫委員) 将来像について、「住みやすい」という言葉を入れれば、全体がカバーできるのではないかと考える。
- (中村会長) この辺は、委員のみなさんが一致することはないと思う。事務局案では住みやすいということが含まれると思うのだが。
- (中島委員) どこを議論するのか、会長に決めていただきたい。議論の対象があっちこちに飛んでいる。
- (岡田委員) 将来像について、新市建設計画の将来像をそのまま使うのはどうかと思う。総合計画なのだから、一歩進めた方がよい。せっかく懇話会から提言もいただいたし、「みんなで(創る)」という言葉を入れてもよいと思う。
- (中島委員) 全員で進めるために、将来像の説明文などを先に議論して、そのあとで将来像の標語を変えるかどうか検討したほうが、委員からも意見が言いやすいのではと思う。
- (中村会長) 今回は、議論対象を区切るのではなく、全般的に、いろいろ自由に委員のみなさんから意見を頂戴したい。
- (近藤委員) ここに出席している委員の意見も大事だが、3,000 人なりの市民アンケートからの意見を、委員が消化してまとめるということも大切である。私としては、将来像はそのままでよいとして、展開方法の A と B で、「心豊かに」と「心安らかに」がかぶるといふ指摘は前回も出された。また、自分のことは自分でやるから負担を軽減してほしい、という市民の意見もアンケートで浮かび上がってきた。展開方向 B を「負担少なく暮らせる安全・安心

なまち」としてはどうか。

- (大貫委員) 全体的にみると、費用対効果、優先度、メリハリ、厳しい財政状況や社会動向の反映、といった点が今まで以上に強調されている。また、特徴的に市民参加も強調されているし、行政評価を入れるといったことは、今までにない考え方だと思う。具体的な施策でアンケートや懇話会提言などを反映させていけばよいと考えている。大綱については、よくまとまっていると思う。
- (岡田委員) 22 ページ、市民ニーズとして、自治医大があるということを前面に出して取り組んだほうがよいという意見を耳にする。「安心して暮らせる健康で明るいまちづくり」のなかでもいいのだが、医療関係の産業を優先誘致するという話が懇話会から出ていた。現状では産業の中に工業・商業しかなく、医療産業は入ってこない。また IT 産業なども含めて、新しい産業の誘致も施策大綱の中に取り入れてもよいのではないか。
- (近藤委員) それに関連して、市民の要望はあるとしても、自治医科大学の側はその組織としての業務があるから、市民にどれほどニーズがあっても対応できるのか疑問である。また、その点を行政で把握可能なのか。
- (石田委員) 22 ページの施策体系図で示されたアンケート調査や提言、新市建設計画からの将来像へ、そして基本構想へ、という流れは合意ということでもいいと思うが、どの部分に対してチェックすればいいのか不明である。
- (中村会長) 委員の皆さんの意見は、具体的な言葉として提示された方がよいと思う。各委員が正誤表のように対案として提出していただき、次回の会議までに事務局で資料としてまとめていただければいいのではないか。
- (伊沢剛委員) 会長が何度も言われているように、基本構想は大枠である。細かいことは実施計画でよい。将来像を基にここまで作成してきている。将来像までも変えてしまうと全てが変わってきて、大変である。前回、展開方向 A と B はこれでよいという話になったと思う。前回、私は 1 つにしてしまえばよいと発言したが、皆さんの意見で A と B になるとなった。
- (中村会長) 前回合意したのは、骨格である。今回議論すべきは具体的な表現なので、変更できないということではない。
- (石田委員) 新市建設計画の将来像と市民意識調査や懇話会の提言が矛盾するということであれば、変更を考えなければならないが、そうでない場合は変えなくてもよいのではないか。どこに集中して討議するか選択しないと議論が発散してしまわないか。
- (中村会長) ただ、将来像の表現を変えたからといって、前提が変わるということはないと考える。したがって、具体的な表現について、委員それぞれから、具体的な意見を出してもらってはよいと思う。

- (野口部長) 活発な議論は有難い。将来像について、新市建設計画は、合併後の新市のマスタープラン、方向付けとして策定した。合併にいたる過程で、市民の皆さんの意見を聞こうということで、やはり懇話会を開催し議論いただいた。将来像についてもその懇話会の提言を踏まえて作成した経緯がある。新しい下野市に対する方向、思いは今回もかなり重なっている。また、市民アンケートも新市建設計画と今回の調査と重複している。これらから総合的に将来像をご提案させていただいた。その点を汲み取っていただきたい。シティ・セールスについては、全国に発信したい、アピールしていきたい、という意味なので、日本語に直すことのほうが難しいのではないかと感じている。
- (石田委員) 一般的な市民感情としてはわかりにくいとは思いますが、下野市のシティ・セールスをどういう方向付けにしていくかを議論したほうが建設的だと思う。シティ・セールスという言葉を出着させることを考えたほうがよい。
- (金子委員) 施策の展開方向の B が「心安らかに暮らせる、安全・安心なまち」だと安心が重複しているように感じられる。文章としておかしいのではないかと。
- (中村会長) 対案が具体的に出てきてから、ということで次回審議は文言をめぐる議論に絞りたい。また、先ほどの医療産業の話についても、産業という分野を超えた話になっている。項目ごとでなく、総合的に見ていく必要もある。
- (野田委員) このような基本構想は上部構造である。社会情勢とか、市民参画とか時代に根ざした理念を盛り込む必要がある。どの市でも似通ったものになりがちであるが、今回の基本構想は概ね理念は取り込んでいると思う。どういう理念を盛り込むかを議論すべきであって、字句や細かい修正についての議論は今の段階ですべきではないと思う。
- (中村会長) 21 ページまでの考え方は了承していただいて、委員それぞれに「こう直した方がよいと思う」という文言の提案を、できれば事前に事務局に出していただきたい。それを踏まえて次回の議論を進めたい。

4) その他

- (中村会長) その他について、お願いしたい。
- (事務局) 各委員からの修正提案を今週中にいただき、庁内の総合計画策定委員会で市としての考え方をまとめて、次回の会議に提案させていただく。それを次回ご審議いただきたい。次回は4月27日(金)となる。
- (近藤委員) 確認だが、修正の対象は全体ということでよろしいか。
- (事務局) 18 ページ以降の 22 ページ (A3) の表以外の文章の表現について、ということをお願いしたい。それを現状と訂正後の対照表のようにしていただきたい。

(中村会長) いろんな意見が出ているが、委員の皆さんが向いている方向は一緒であると認識している。これからの下野市について、非常に大事なところなので、これからも宜しく願いしたい。

以上